

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●長岡禎仁騎手がJRA通算100勝を達成

11月2日(土)の6回京都1日・第5レースではストップヤーンが1着となり、同馬に騎乗した長岡禎仁騎手(栗東・高橋亮厩舎)は、現役93人目となるJRA通算100勝(2735戦目)を達成しました。

●黛弘人騎手がJRA通算200勝を達成

11月2日(土)の3回福島1日・第8レースではヘヴンリーハンドが1着となり、同馬に騎乗した黛弘人騎手(美浦・フリー)は、現役59人目となるJRA通算200勝(6331戦目)を達成しました。

●松山弘平騎手がJRA年間100勝を達成

11月3日(祝・日)の6回京都2日・第1レースではマテンロウコマンドが1着となり、同馬に騎乗した松山弘平騎手(栗東・フリー)は、自身5年連続5回目、本年4人目となるJRA年間100勝を達成しました。

●武豊騎手が黄綬褒章を受章

令和6年秋の褒章において、武豊騎手(栗東・フリー)に黄綬褒章が授与されることとなりました。前人未到のJRA通算4545勝(11月2日現在)をあげるなど騎手として数々の記録を打ち立て、中央競馬の発展ならびに畜産業の振興に多大なる貢献を果たしたとして、その功績が認められたものです。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●JBCはウィルソンテソーロ、タガノビューティーらが優勝

JBCクラシック(JpnI、11月4日、佐賀、2000^米)は、中国から差を詰めて3コーナー過ぎに先頭に立った1番人気のウィルソンテソーロ(川田将雅騎手、牡5歳、父キタサンブラック)が、メイショウハリオを4馬身引き離してJpnI初制覇。3番人気のノットゥルノは5着、逃げた2番人気のウィリアムパローズは6着に沈みました。

JBCスプリント(JpnI、11月4日、佐賀、1400^米)は、中国から4コーナーで先頭に並んだ4番人気のタガノビューティー(石橋脩騎手、牡7歳、父ヘニーヒューズ)が、1番人気のチカッパとの競り合いをハナ差で制しました。2番人気のシャマルは7着、バスラットレオンは8着、ヘリオスは10着に敗れています。

JBCレディスクラシック(JpnI、11月4日、佐賀、1860^米)は、先手を取った4番人気のアンモシエラ(横山武史騎手、牝3歳、父ブリックスアンドモルタル)が、1番人気のグランブリッジに4馬身差を付けて圧勝。3番人気のテンカジョウが3着に入り、ライオットガールは4着、2番人気のアイコンテラーは7着でした。

JBC2歳優駿(JpnIII、11月4日、門別、1800^米)は、後ろから3頭目という位置から追いつけた5番人気の北海道所属馬ソルジャーフィールド(小野楓馬騎手、牡、父ルヴァンスレーヴ)が直線半ばで抜け出し、3馬身差で楽勝。グランジョルノが1番人気のタガノマカシヤを捉えて2着、ダノンフェルゼンは5着、イサナは7着、ローランドパローズは8着に終わっています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ブリーダーズカップ〜日本馬は勝利ならず

現地11月1日、2日に米国カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたブリーダーズカップ(以下BC)のメインレースであるG1BCクラシック(2日、3歳上、ダート2000^米)は、F.プラ騎手を背に3コーナー過ぎから外を回りながらポジションを押し上げていき、直線入口で先頭に立ったシエラレオーネ(牡3歳、父ガンランナー、C.ブラウン厩舎)が優勝しました。1馬身半差の2着に昨年のG1BCジュベナイルの勝ち馬で、今年はフロリダダービー、トラヴァーズSとG1・2勝のフィアスネス。そこから1馬身1/4差の3着にフォーエバーヤングが入って日本調教馬では最先着の3着。同じく日本から参戦したウシュバテソーロとデルマソトガケはそれぞれ10着、13着に終わりました。

勝ったシエラレオーネは今年4月のG1ブルーグラスS(ダート1800^米)でG1初制覇。その後、G1ケンタッキーダービー2着、G1ベルモントS3着、G2ジムダンディS2着、G1トラヴァーズS3着と勝ち切れないレースが続いていましたが、大一番で鮮やかな差し切り勝ちを収めました。なお、今年のBCで日本調教馬は2日間で計18頭が10レースに出走しましたが、G1BCターフ(2日、3歳上、芝2400^米)に出走したローシャムパークのクビ差2着が最高着順でした。